

中二国語科通信

第4号
令和4年2月14日
国語科3年担当
福之内・俣間・日高



四歳の息子のもらいしラブレター
便箋にただ「ゆうたくん」とある

「十四歳の君へ」

〈10月14日掲載〉

ピアリスト・小説家

藤崎彩織「課外活動」

「今の『点』はいつか『線』に」
・今の悩みはむだにならない
・日記読み返すと新しい発見
・未来は必ず良くなる



三組 脇屋敷あげは

私は、自分の得意とすることがうまくいかなかった時、どうしようもなく駄目であつた人間に思ってしまうことがある。そんな時、手札を多く持っていればスムーズにシフトできるのだと知った。「挑戦」は輝かしくも気の重くなる行為だ。が、達成した後には広がる選択肢は計り知れないのだと。

「十四歳の君へ」

〈11月1日掲載〉

総合内科専門医

おおたわ史絵「保健体育」

・心と体の健康 挑戦に必要
・何でもできるし、何にでもなれる
・心と体の健康を保つのが大事
・自分で自分をほめてあげよう



三組 本村藍叶

私は今「将来どんな職業につきたいか」で悩んでいる。挑戦したい職業は心の中にずっとあるが、とても人気な職業でそれ一本で食べていけない可能性が大きく、両親に言えずにいる。しかし、少しでもかなえられる可能性があるなら、努力してみようと思った。だって「可能性はゼロじゃない」。

自己探究ノート「私と〇〇」

今回はなんと、「横田優希特集」!!!!

良い作品が多くて絞り切れなかったので一挙掲載です。



「私と目覚まし時計」

目覚まし時計は睡眠という幸せなひと時を一瞬で壊してしまふ凶器だ。毎朝六時二十分に設定しているアラーム。自分自身が設定しているのは分かっている。しかし、朝は少しでも長く寝たい。「ピピッ」この音が鳴ると現実を引き戻されてしまう。止めてもまた五分後に鳴る。現実と夢、その二つの間にあるのが目覚まし時計だ。

▼「凶器」という激しめの比喩が効いています。現実の世界に行きたくない。だけれど行かない勇氣もない。だから、離れられない。なんて恐ろしい！ 思った以上に凶器だわ。

「私と学校」

私は学校に来るのが早い。朝、静かな教室で過ごすのが好きだからだ。少しすると、心陽さんと陽菜さんが来る。そして数学の課題の教え合いやおしゃべりをする。静かだった教室に笑い声が響き、明るい雰囲気になる。私はこの時間も好きだ。勉強は大変だが、友達と過ごす時間が好きだから、私は学校が好きだ。

▼静かな教室↓にぎやかな教室。時間を追っての雰囲気の変化が鮮やかに描かれています。「好きだが四回出てきますが、確かな思いが感じられるので、今回は良しとしました。」

「私と大人」

最近、大人は理不尽だと思ふことがある。大人はよく「大人になれば私達の気持ちが分かる」という。しかし、反抗期の私は「子どもだったのになぜ子どもも気持ちが分からないの」と思う。このようなことを親に言うのは喧嘩になってしまうので言わないようにしている。だから私は、はやく大人になりたい。

▼「子どもだったのになぜ……」って、痛烈！ しかし口には出さない。でも批判一辺倒ではなくて、結論は「だから大人の考えが知りたい」なんです。シンプルに見えて、深い。

「私と友達」

私にとって友達はとても大切な存在だ。そしてその存在は、中学校に入ってから大きく変わった。小学校の時は、ただ一緒にいて楽しいだけだった。しかし、中学生になると、「相談のろうか」「悩んでない？」など、私の心に寄り添ってくる友達ができた。自分から相談するのには苦手なので、そういう存在は、かけがえのないものだ。

▼友達観の変化に、横田さん自身の成長が感じられます。使っている言葉は平易なのですが、奥行きのある表現ができていますね。言葉に対するこの感度の高さが、お見事です！

「私とカギ」

私にとってカギは、一人前になれた証拠のようなものだ。小さいころ私は、家のカギを持っている大人や兄に憧れていた。だからカギをもらえたときは少し大人になれたような気がした。しかし、兄はよくカギをなくした。怒られ、カギは与えられなくなった。この時カギは、兄に初めて勝ったと感じた。カギは私の戦利品でもあるのだ。

▼カギを「一人前になれた証拠」と「戦利品」に喩え、その理由がわかるエピソードも書かれた濃い一五〇字です。比喻と対比のセンスが抜群の、横田さんらしい文章が全開の文章！

狭間推薦

「私と妬み」

川畑慶介
私は、十四年間生きてきて人を妬んだことがない。人を妬んだからといって何も変わるわけでもないし、逆に周りから小さい人間だと思われてしまうからだ。確かに羨ましいと思った事は何度かある。しかし、自分がその相手より上を目指して頑張れば良い事だ。逆にやる気のスイッチが入って頑張る事ができる。

▼川畑君にこんなに熱い思いがあったなんて知りませんでした。なんかちよつと感動です。

狭間にダメ出しをたくさん食らいながらも頑張って書き続けた川畑君の傑作も読んでみてください!!!